HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ピア・サポート室の位置と環境 : 学生がすごしやすい環境をいかにデザインしていくか
Author(s)	藤原, 美津穂; 岡本, 健
Citation	北海道大学ピア・サポート活動報告書（平成22年度版）pp.53-68
Issue Date	2011-03-31
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/45444
Type	report
Note	4.ピア・サポート室の位置と環境 : 学生がすごしやすい環境をいかにデザインしていくか
File Information	04.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

4. ピア・サポート室の位置と環境

学生がすごしやすい環境をいかにデザインしていくか

４．ピア・サポート室の位置と環境

学生がすごしやすい環境をいかにデザインしていくか

藤原美津穂[1]・岡本健[2]

本章では、ピア・サポート室の位置および環境について整理する。ピア・サポート室は設立時には、ボランティア室をお借りして活動していたが、2010 年 11 月より専用の部屋に移転した。それにともなって、ピア・サポート室の位置や室内の環境が大きく変化した。ピア・サポート室の位置や環境は、ピア・サポート活動を行っていく上で、重要な要素であると考えられる。たとえば、学生が通りやすい場所にある方が良いのか、通りにくい場所にある方が良いのか、といった問題や、室内の内装や掲示などをどのようにしていくのか、という問題である。位置に加えて、ピア・サポートメンバーがどのように部屋を運用していくかによって、室内および室外環境は大きく変わってくると考えられる。本章では、そうした運用も含めて詳細に記述し、ピア・サポート室の位置と環境について考察を行いたい。

４．１．2009 年 10 月～2010 年 10 月　ボランティア室

ピア・サポート設立時から 2010 年 10 月までは、教養棟北側にあるボランティア室をお借りして火曜と木曜の週 2 回活動していた(ボランティア室が月・水・金に活動していたため。)。ボランティア室は、教養棟（高等教育機能開発総合センター、2010 年 10 月より、高等教育推進機構に名称変更）にあった。教養棟の学内での位置は図 1 の通りである。情報教育館の北側に位置し、キャンパス内においては比較的北側にある施設と言える。地図上では、中央よりに見えるが、多くの学部が教養棟より南側にあるため、学生の心理としては北側にある施設という印象を持つことが多いようである。教養棟の外観は図 2 の通りである。そして、教養棟内におけるボランティア相談室の位置を示したのが図 3 である。正面玄関から入って右手奥にあり、地図上で確認すると行きやすい場所のように見えるが、実際は、正面玄関を入って正面にある階段を上って講義室に行く学生や、左手の教務課や学生支援課の窓口に行く学生が多いため、頻繁に利用される通路とは言い難い。また、リフレッシュコーナーが隣接しているが、ここはサークルが集まって会議を行うというような利用のされ方や、レポート課題などのディスカッションなどで用いられること、そして、一人での自習に用いられることが多いように見受けられた。ピア・サポート室はリフレッシュコーナーと地図上では隣接しているものの、リフレッシュコーナーからピア・サポート室に人が流れることはあまり無かった。ボラ

[1] 北海道大学大学院　工学院　建築都市空間デザイン専攻　修士課程
[2] 北海道大学大学院　国際広報メディア・観光学院　観光創造専攻　博士後期課程

ンティア室の向かいには学生相談室があり、周囲は静かで落ち着いた環境であったが、その一方で、前述のように学生があまり利用しない通路ということもあり人通りが少なく、ピア・サポート開設を周知するという点では難しい部分もあった(図 4、図 5)。

旧ピア・サポート室の室内見取り図が図 6 である。ボランティア室を間借している状態のため、相談室や作業室を分けることは無かった。部屋の内部は特に変化させることはせずに、ピア・サポート用のパソコンを 1 台設置させていただき、ボランティア室が通常使用している机をそのままお借りして業務を行った。ピア・サポート室が併設されていることを宣伝するために、開設日には、入口に取り外し可能な看板とウェルカムボードを設置した(図 7)。2010 年 4 月には「本活」を行い、イベント用としては部屋が狭かったのだが、隣接したリフレッシュコーナーや廊下まで空間を広げることで解決をはかった。ただし、実施したところ、廊下に利用者が並ぶことで、通行の妨げになる場面もあり、大きなイベントを実施する際にはスペースが不足していることが明らかになった。

4．2．2010 年 11 月～　新ピア・サポート室

ピア・サポートは、2010 年 11 月よりピア・サポート専用の部屋を用意していただき、新ピア・サポート室にて再始動している。場所は情報教育館にある。情報教育館の外観は図 8 の通りである。新ピア・サポート室は情報教育館 2 階の、付属図書館北分館から 1 年生が授業を受ける教養棟に向かう途中に位置している（図 9)。そのためピア・サポート室前には、授業の空きコマなどに図書館を利用する学生が、教養棟と行き来している姿が見られる(図 10)。ボランティア室よりも 1 年生に認識されやすい場所にあるため、ピア・サポートの周知には好立地である。このような立地条件の良さを生かし、開設時間を週 3 回(月・水・金)に増やし、より学生が利用しやすい環境作りに努めている。

新ピア・サポート室の見取り図は、図 11 に示した。部屋全体には、緑色のカーペットを敷き詰めた。緑色を選択した理由としては、北海道大学のカラーである点である。ただし、リラックス効果を考え、薄い緑を選択している。ピア・サポート室には、大きく分けて、2 つのスペースを設けている。それぞれ、①事務室および個別相談スペース ②オープンスペースである。

①事務室および個別相談スペース

事務室は、ピア・サポートの事務的な作業を行う部屋である(図 12)。デスクトップパソコンや大型プリンターなど、ピア・サポート活動を行うために必要な機器がそろっている。また、事務室側に衝立を設置して個別相談スペースを併設しており、ピア・サポーターと相談者が周囲の目を気にせず話ができる空間をつくっている(図 13)。しかし、事務室とオープンスペースとの間仕切りが完全には閉じられていない(天井部分が空い

ている)ため、声が漏れてしまうことが現在の問題点となっている。この点については、まずは相談時の声の大きさに配慮することを心がけている。ただし、この対策にも限界はある。相談者によっては声の大きい相談者もおり、また、話が盛り上がってきた場合に自然と声が大きくなる場合もある。さらに、オープンスペース側が静寂な状態の場合は、なおさら、個別相談スペースでの会話が、オープンスペース側に聞こえてしまう。そこで、相談にあたっていないサポーターが話をするなど声を出すことで個別相談の声が聞こえないようにする、オープンスペース側に BGM を流すなど、今後対応を考える必要がある。

②オープンスペース

事務室と間仕切りで隔ててオープンスペースがある。事務室前にカウンターを設け、そこに、スタッフジャンパー（あるいは、スタッフポロシャツ）を着用したピア・サポーターが座り、学生の対応にあたっている。

オープンスペースの中央部に 4 人掛けのテーブルを 4 つ、窓側には 1 人で集中して使用できるような席を 6 席ほど設けている(図 14)。授業の無い時間にゆっくりくつろいだり、読書をしたり、数人で勉強やミーティングをしたり、軽い飲食も可能で、基本的には学生が想い想いに自由に使用できる空間にしている。しかし、ピア・サポート室のオープンスペースは、「1 人～4 人程度の少人数でくつろいで使用できる場」を目指しているため、サークル等大人数による占拠などは防がねばならない。その点については、2～3 人で使用できるような 4 人掛けのテーブルを用いて、テーブルとテーブルの間の余白空間を広めにとるように配置し、大人数で集まりにくい空間をつくっている。オープンスペースのレイアウトは必ずしもこれで決定ではなく、今後の学生の利用状況に応じて変化させていこうと考えている。勉強の場所という点では、すぐ隣にある図書館と機能が重複しているが、ピア・サポート室のオープンスペースは、いつでも数人で発話し、相談しながら勉強できるので、その点は図書館にはないメリットと言えるだろう。ただし、開室曜日や時間に制限があり、いつでも入ることができるわけではない点は、今後の学生の利用状況などから改善を考える必要があるかもしれない。

オープンスペースの入口のドア幅は約 2m あるので、開設時間はこのドアを常に開放しておくことで、廊下側から内部の様子がわかりやすいようにしている(図 15)。逆に、内部にいるサポーターからも入口付近でこちらを窺っている学生を見つけやすいので、こちら側から声をかけるきっかけが生まれやすいのではないかと思う。こちらを窺っているような学生には挨拶をするなどして、積極的に声をかけている。だが、入口で一瞬立ち止まり、中の様子を伺うが、帰ってしまう学生もいる。開放しているはずの入口の所に、まるで見えない壁があるように感じてしまう。なるべくサポーターから声をかけることは徹底しているが、逆に声をかけられることで何かに勧誘されると思うのか、そそくさと立ち去ってしまう場合もある。そのような学生にピア・サポート室を少しでも

理解してもらうために、入口付近にピア・サポートを紹介するビラや、ピア・サポートに関する記事が掲載されている学内広報誌「えるむ」を置いたり、ウェルカムボードを設置したりして、まずはピア・サポートとオープンスペースの存在の周知を図っている(図 16)。また、廊下の壁がある程度の面積があるので、ここを掲示板として利用してポスターを掲示している(図 17、図 18、図 19)。入口外に様々な情報を置いたところ、ポスターを確認してから、「勉強しても良いですか？」と、積極的に声をかけてくれる利用者が増えたように感じている。特に、ピア・サポーターの奥塚氏の提案で実現した、台の上にビラや「えるむ」を設置する試みは、有効な様子で、学生が自分の意思でピア・サポート室の情報を収集する機会となっている。利用学生数の維持やピア・サポートの存続などを考えたとき、サポーターがこの点について、いかに対応していくかが、今後の重要なポイントになるであろう。

４．３．まとめ

部屋の大きさが、以前に比べて約３倍になったことで、活動の幅が広がっている。特にイベント利用にはその効果が期待される。

昨年に引き続き開催している「本活」では、回収した本は配布せず、オープンスペースに設置している本棚に陳列して、今後ピア・サポート室を利用する学生が随時閲覧可能にすることを予定している。配布した場合では、「本を持ってきてくれた人」と「これから本を利用する人」の１対１の関係であったが、閲覧にすることで１対多数の関係が生まれ、より多くの交流を生み出すことができると考えられる。本の陳列の仕方を工夫することで、本との出会い方も多様になるのではないかと思う。本を持ってきてくれた学生によって本棚が作られていくので、図書館とは異なるラインナップが期待できる。また、例えば「〇〇サポーターお勧めの本ブース」を設置して、そのサポーターのお勧め本を集めたブースを作り、サポーターもその場で学生に本の紹介をすることで、サポーターと学生がコミュニケーションを図るきっかけを創出することなども考えている。さらに今年の本活では、４月の新歓期には「新入生応援キャンペーン」と題して、インテーカー業務の拡大版を行う予定である。学内で発行されている案内や学務関連の資料を集めて机に並べて、ピア・サポートが「情報の拠点」であることをアピールしたり、生協書籍部に協力してもらい教科書の共同購入申込みの支援を行うことを考えている。もちろん、通常通りサポーターによる対応も随時行う。

そして新たに、具体的な計画として「ピアカフェ」を検討中である[3]。「カフェ」という場では、誰でも自由に会話ができるような空間が構想できる。ヨーロッパの都市に見られた飲食店で、新聞や雑誌を読むことができ、その当時の政治や経済の話題に関して情報交換ができる場として機能していた。その当時はまだ新聞は高価だったため、カフ

[3] 企画の詳細については、本報告書の第６章を参照のこと。

ェには多くの人々が集まっていた。カフェはコーヒーを飲むためというよりも、むしろ、情報を得るため、情報共有の場として発展していたようだ。ピアカフェもそのような場を目指して考えている。コーヒーの提供を媒介にして、ピア・サポート室をより利用しやすい場にすること、カフェという場を通してピア・サポートを広く周知して活動の活性化を図ることを目的とするものである。実施に当たっては、大学の規則等の適合、衛生的な環境の保持、通常業務以外にコーヒーを提供するための人員の確保など、いろいろと課題があるが、ピア・サポートを学生により身近に感じてもらい、サポーターと訪問者が円滑にコミュニケーションをとれるような企画としたいと考えている。また、一時的なイベントとして行うのか、継続してピア・サポートの開設時間に行うのか、課題として挙がっている問題も考慮しながら検討していきたい。

このようなピア・サポート企画のイベントはもちろんだが、学生企画イベントへの場所提供、他組織とのコラボレーション企画という形でも今後活用していきたいと考えている。すでに、「二次元芸術研究会」によって、ピア・サポート室で展覧会が開かれている（図 20）。「二次元芸術研究会」は、全学教育の授業に集った学生が、それをきっかけとして、年に一度、展覧会を行っているものである。部活動やサークルとは異なる学生同士の集まりである。展覧会を行うことができる場所を探し、ピア・サポート室を活用していただいた。ピア・サポート室に据え付けで設置されている本棚を活用し、そこに写真を中心とした作品を並べ、ピア・サポート室の備品である自立型スクリーンとプロジェクタを用いて、北海道大学のメインストリートを南から北方向に歩きながら撮影した写真のスライドショーに音楽を着けた映像作品を放映した。この試みによって、研究会メンバーにピア・サポート室を知ってもらうことができ、また、利用したことが無い学生に、「ここはいったい何をするところなのだろう？」と興味を持ってもらうことができた。利用規約の策定など、制度面での整備が必要になるが、今後もこうした活用のされ方は推奨していきたい。

北大には多数のサークル、部活、同好会などが存在する。彼らの活動のアピールの場として活用されることで、学生がそのサークル活動に興味を持つきっかけになったり、さらに新たな交流が創出されたりするきっかけとなることを期待している。これは、部活やサークルの無理な新入生勧誘行為を抑制することにもつながると考えられる。新入生歓迎期には、新入生のみならず、勧誘する側の学生にも金銭的にも時間的にも多大なコストがかかっている。新入生勧誘の際に食事をおごるために、アルバイトをしてお金を貯めなければならない、という話も聞こえてくる。

ピア・サポート室の位置や環境によって、できることが大きく変わって来ることを実感している。好立地に専用の部屋を与えていただいているに恥じぬよう、運営していきたい。学生生活を送っていく際に、ふと立ち寄ってゆっくりと気持ちを落ち着けたり、考え事をしたり、談笑をしたり、そういったことができる環境の構築を目標として、今後もレイアウト等試行錯誤し、その効果を観察、記録していく必要がある。

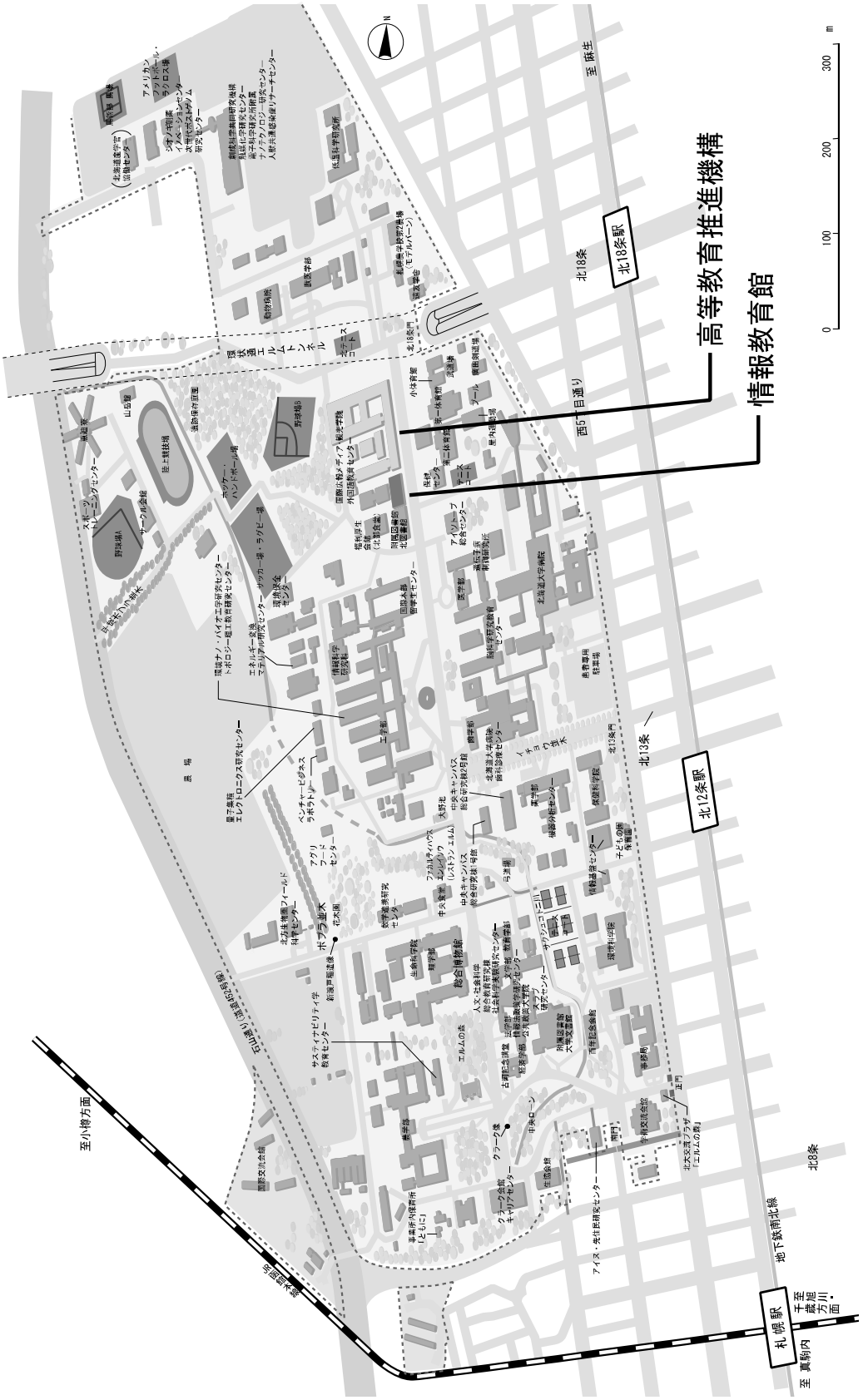

図 1 教養棟（高等教育推進機構）と情報教育館の位置

図 2 高等教育推進機構外観

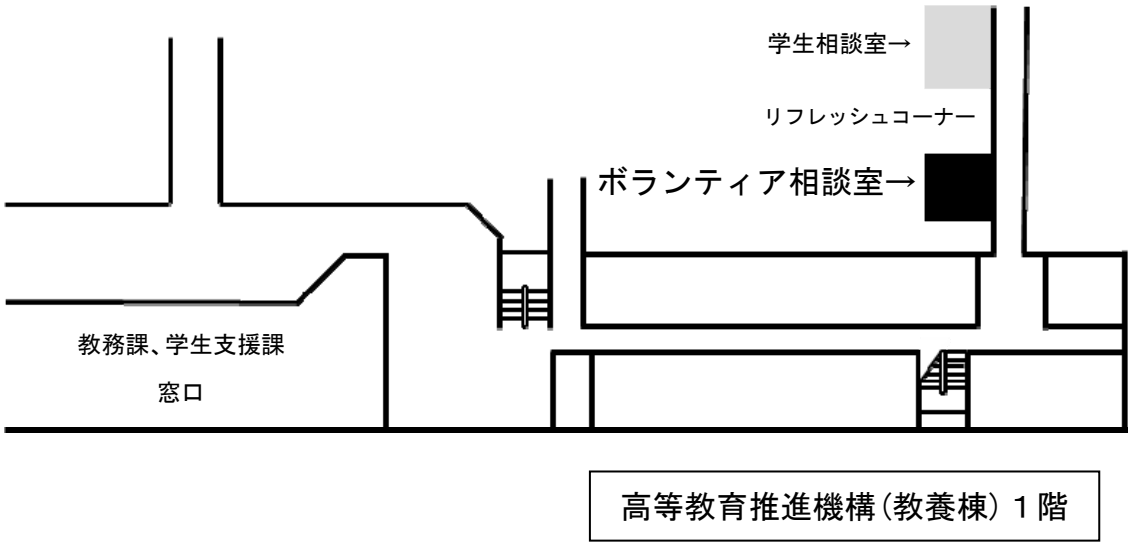

図 3 旧ピア・サポート室（ボランティア室）の位置

図 4 旧ピア・サポート室の外観①（左側が入口ドア）

図 5 旧ピア・サポート室外観②

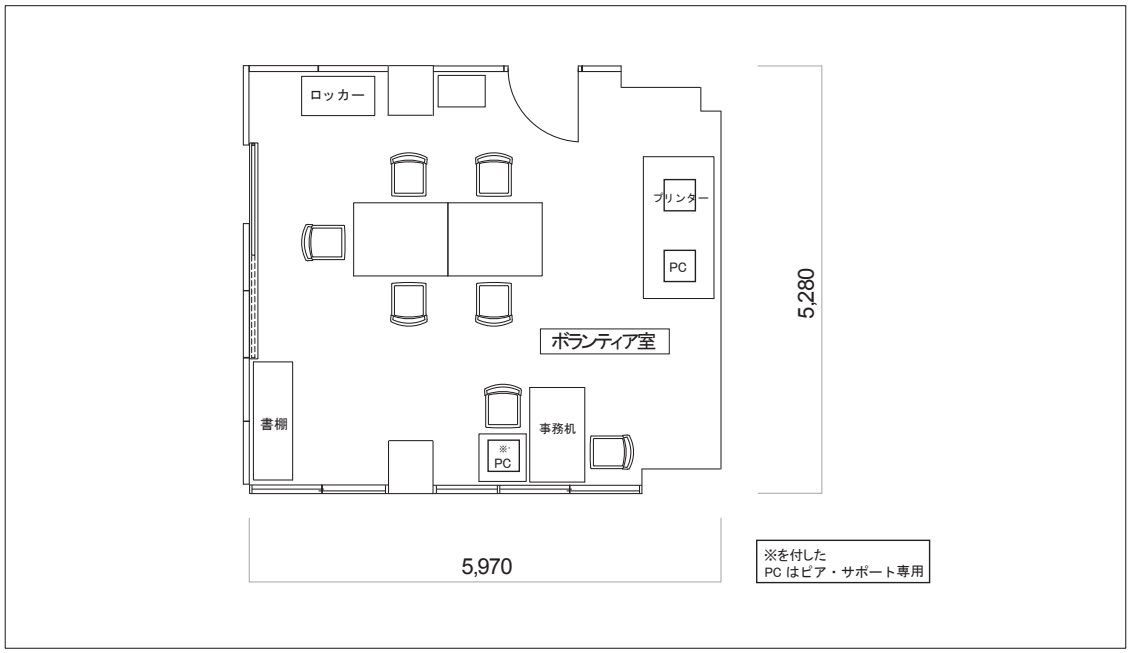

図 6 旧ピア・サポート室（ボランティア室）の平面図

図 7 旧ピア・サポート室案内板

図 8 情報教育館外観

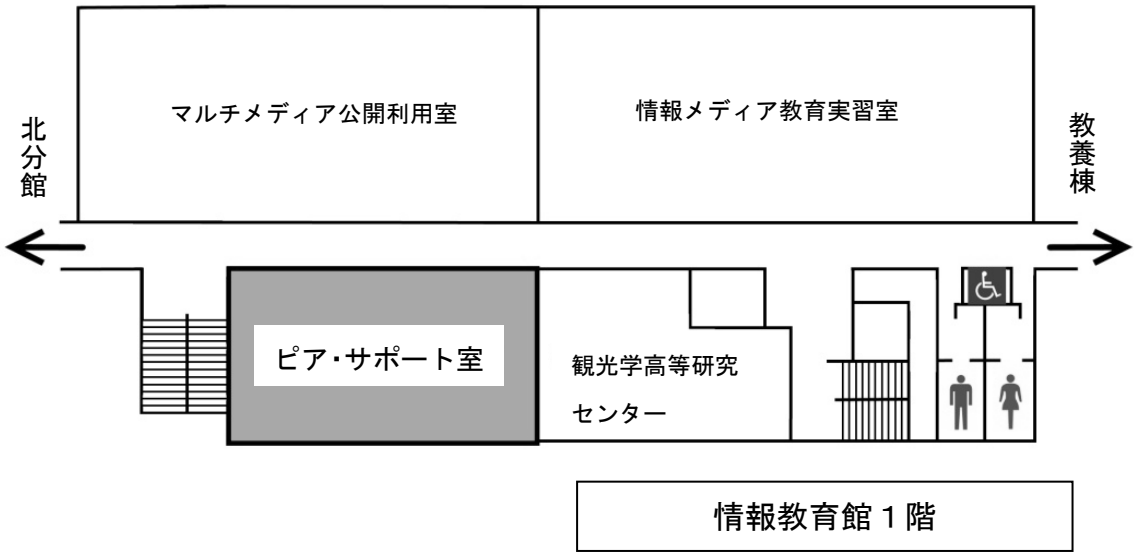

図 9 新ピア・サポート室の位置

図 10 新ピア・サポート室入口の様子(右奥が図書館北分館)

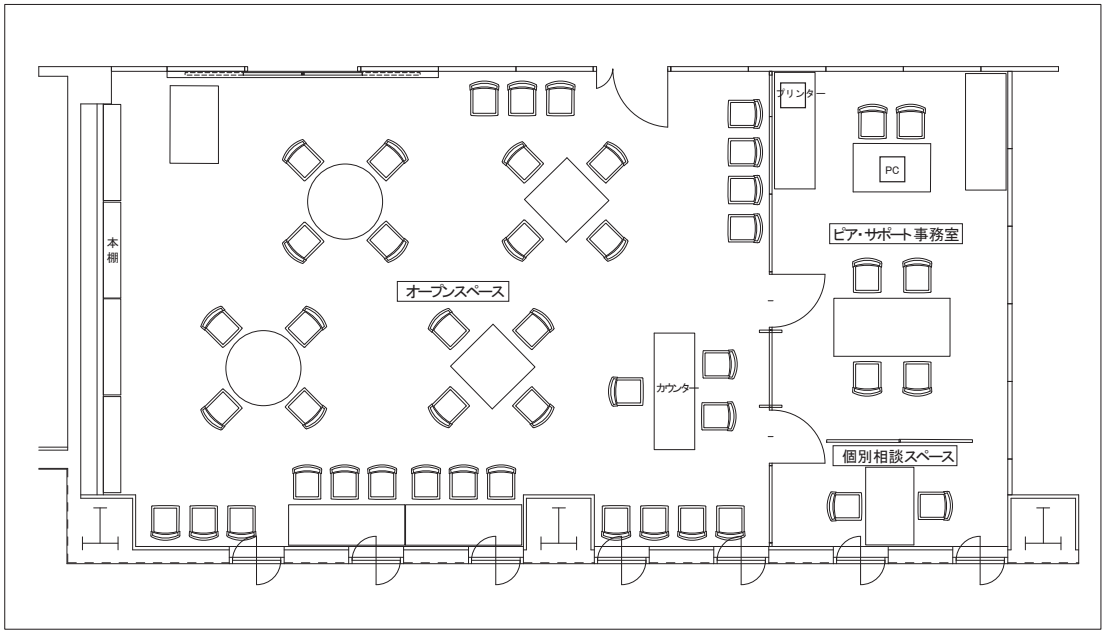

図 11 新ピア・サポート室の平面図

図 12 事務スペース

図 13 個別相談ブース

図 14 新ピア・サポート室のオープンスペース

図 15 新ピア・サポート室入口から中をのぞいた様子

図 16 ウェルカムボードと台上のビラ

図 17 廊下に面した壁面の掲示スペース

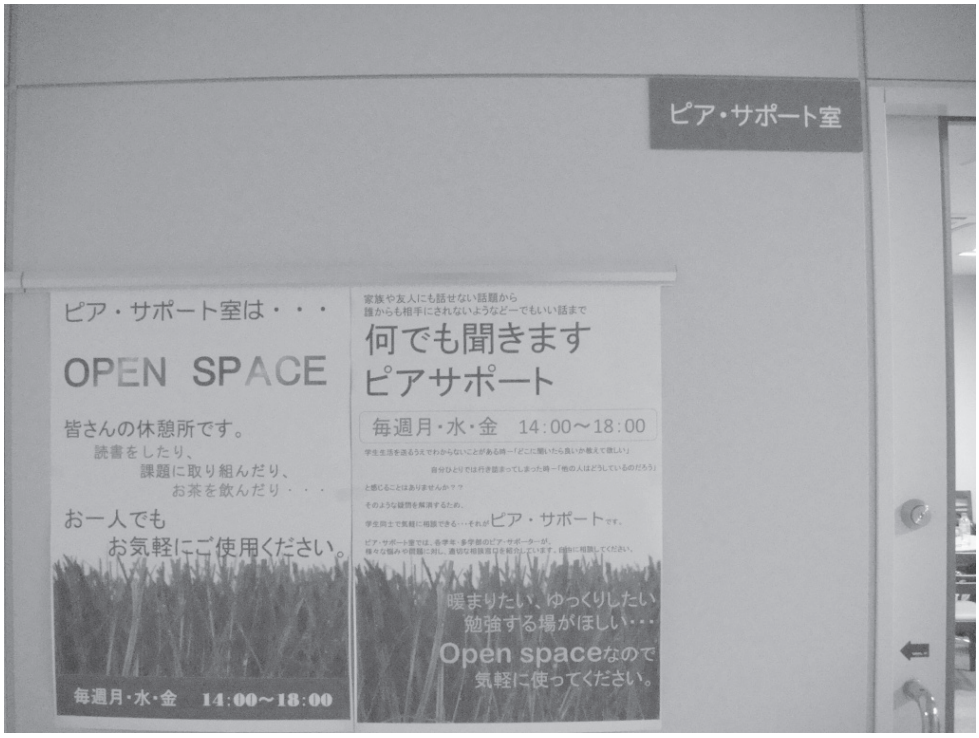

図 18 壁面の掲示スペースに貼ったポスター

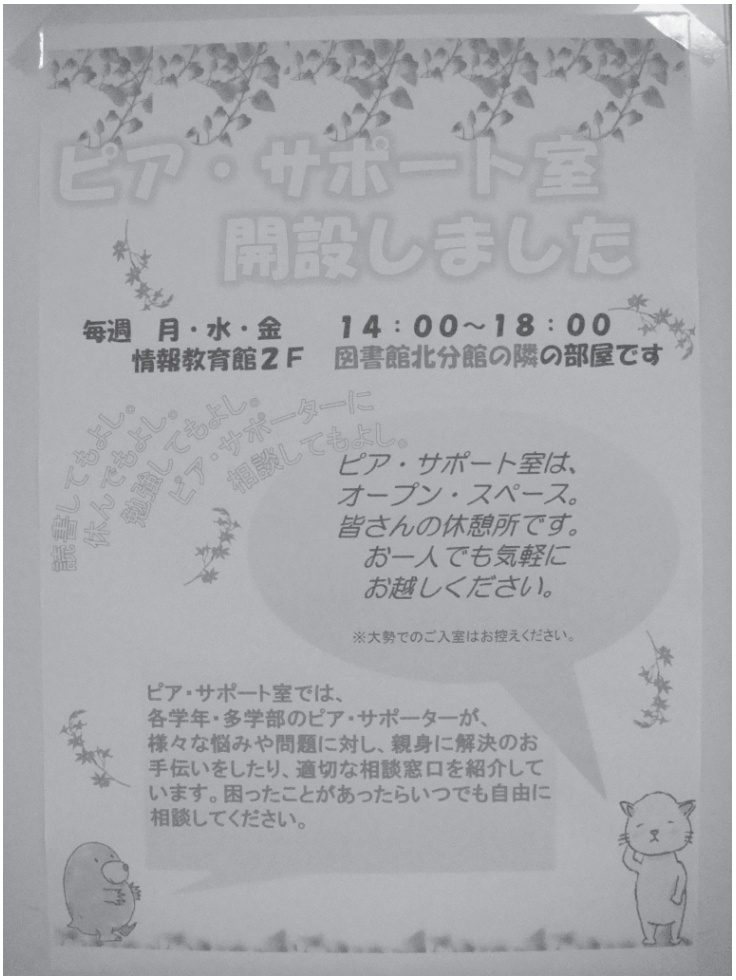

図 19 ピア・サポート室の案内ポスター

図 20 「二次元芸術研究会」展覧会準備の様子